

平成 25 年 6 月 13 日

山形県舟形町が取り組む ふるさと特養整備



平成 24 年 9 月 6 日指定

国宝「縄文の女神」

平成 25 年 6 月 13 日
山形県舟形町

山形県舟形町が取り組むふるさと特養整備

1. 舟形町の取組みの背景

舟形町は、昭和 29 年 12 月 1 日に町村合併しましたが、その時の人口は 12,000 人であった。当時は、亜炭産業並びに内陸油田の地下資源の宝庫として全国的な脚光を浴びた町であった。現在は、農業を基幹産業とする町であるが、時代は、人口減少社会への突入、少子高齢化の進行、雇用の創出にどう立ち向かっていくかが最大の課題となっております。

今、町では、人口増の政策として豊かな自然と住みやすい環境、交通の要衝にある町を売りにして、交流人口は基より、定住促進、子育て、婚活、人材育成、元気な高齢者づくりの推進、地域づくり、教育の充実等を礎にして、農業・商業の活性化、企業誘致、観光産業、そして福祉産業からの雇用の創出に取り組んでおります。

特に、福祉産業の誘致は、雇用の拡大を図る上で極めて即効性と雇用の安定性があります。

以上のような視点に立って、舟形町では、平成 21 年から都会にお住まいの方々を対象としたふるさと特養施設整備について検討して参りました。

そんな中、平成 22 年 11 月 19 日に東京都福祉保健局高齢社会対策部が全国の府県に呼びかけて開催されました「ふるさと特養（都外特養）について」の勉強会に山形県を始めとして 8 県、市区町村では本町だけが参加いたしました。

その時の都の提案では、都民専用の特養整備の建設費を東京都が全て財政支援し、地方の社会福祉法人が管理運営を行うこととなっておりましたが、都民専用の特養整備は、厚生省令第 4 条 2 項及び老人福祉法第 15 条第 6 号に抵触すること、東京都の財政的な問題から勉強会の提案事業は、頓挫した経過があります。

また、本町の経済情勢は、雇用対策が喫緊の課題であり、加えて少子化による空き学校（25 年 4 月に 4 校統合により 3 校が空き校舎）や空き保育所（3 保育所中、1 カ所は地域密着型介護老人福祉施設として活用、1 カ所は解体、1 カ所が空いている。）の活用も喫緊の課題であり、舟形町では、ふるさと特養整備の事業化を最重要政策として取り組んでいるところであります。

2. 舟形町の概要



【位置・気候】

舟形町は、県の北部に位置し、奥羽山脈と出羽丘陵の山麓に囲まれ、最上川に注ぐ清流小国川と松橋川の流域に沿い、南北 6.5km、東西 27.4km の町である。気候は、内陸性で冬は全国有数の豪雪地帯である。特豪、過疎、山村、辺地、低工、農工、特定農山村の指定地域である。

【面積】 119.03 k m²

【人口・世帯数】

6,003 人 (1,906 世帯) H25.4.1 現在

【主要企業等・従業員数】

(社会福祉法人) 舟和会 189 名、(株)キリウ 168 名、J A 新庄もがみ 83 名、(医) 徳洲会 72 名、(有) 舟形マッシュルーム 70 名

【町の名所・旧跡・祭り等】



日本三大地蔵尊
猿羽根山地蔵尊



鮎釣りのメッカ
小国川



明治 14 年明治天皇東北ご巡幸の折、ご献上された松原鮎



松橋観光わらび園



9 月の若鮎まつりでの鮎のつかみ取り風景



18 ホールフル規格の低価格な県民ゴルフ場



ジャンボマッシュルームで有名な舟形マッシュルーム



舟形若あゆ温泉



舟形若あゆ温泉からの眺望は、県内の主要な山々が眺望でき、県の眺望景観資産に認定